

---

---

## 議 事 要 旨

---

---

議 題：第 1 回 エキサイトよこはま 22 懇談会

開催日時：平成 22 年 6 月 15 日(火) 9:00~11:00

場 所：横浜ベイシェラトンホテル 4 階 清流

出席者：(議事要旨最後に出席名簿を添付)

議事内容：下記参照

---

### 1. 開会 (事務局より挨拶、会議趣旨の説明)

### 2. 横浜市あいさつ

#### ○副市長：小松崎

- ・ 昨年度、「エキサイトよこはま 22」にて、20 年先ぐらいを見越した基本的な考え方をまとめさせて頂いた。平成 19 年から委員会、懇談会を重ねて、皆様方のご意見を踏まえてここまでたどり着いたが、いよいよ今年から具体化に向けた第一歩を改めて進み始めるということでお集まり頂いた。
- ・ 具体化とは、関係者の方々が非常に多い中で、マスタープランをきっちりと描いて、一定の修正プロセスをかけたうえで、皆さん方の合意形成をまとめ上げていくことに尽きる。前回の懇談会でも議論になったが、当面のまとめ役は横浜市がやらなければだめだという各方面からのご意見もあり、われわれ横浜市がやらせて頂くというかたちでここに至っている。
- ・ 今日から新しい懇談会がスタートした。これまでの方々に加え、まちづくりの関係者の方々、自治会の関係者の方々にもご参加頂いた。継続メンバーの方々ともども、よろしくお願ひしたい。
- ・ これから 4 カ年程度を目標に新しい林市政版の中期的な計画を策定していき、今年中にまとまることになる。市長は民間出身ということもあり、経済活性化に大変重きを置いてこれから施策を展開していく。子育て支援ももちろん重要視してやっており、それらも広い意味で見れば将来の横浜への投資である。横浜版の成長戦略を新しい中期的な計画の中に盛り込んでいく、その中に「エキサイトよこはま 22」をおそらく入れていくことになるだろう。そうなるよう、きっちりやらせて頂きたい。
- ・ 国としての成長戦略において、国際コンテナ戦略港湾で選択と集中をかける一方

議事要旨

で、大都市の再生というテーマが謳われ、国際戦略総合特区を取込み、1カ所あたり1兆円程度の民間投資を呼び込めるような税財政支援をしていこうという話も聞いている。この国策にふさわしいフィールドをぜひ横浜の中で用意していかなければいけない。それに一番適しているのは「エキサイトよこはま 22」だと考えている。こういうナショナルプロジェクトを呼び込んでいくという姿勢で、これからも頑張りたい。

- ・ 横浜駅周辺の成長、発展が将来の横浜の屋台骨を担っていく、この発展がなければ横浜市発展もないぐらいに考えている。ぜひ皆さん方の英知を結集して頂き、事業をかたちにしていくためのご協力を今後ともよろしくお願ひしたい。

### 3. 議題

(1) エキサイトよこはま 22 懇談会の設置について（事務局より説明）

(2) 各委員の紹介（事務局より各委員のご紹介）

(3) 座長、副座長の互選

懇談会設置要綱第5条に基づき、座長、副座長の互選を行う。

座長について

○委員：小谷

- ・ 小松崎副市長より、ご挨拶、決意表明があったように当面は横浜市にリーダーシップをとって頂けるということで、昨年度の懇談会と同様に小松崎副市長に座長をお願いしたい。

→異議なし。（各委員）

副座長について

○委員：小谷

- ・ 座長一任

→地元代表として、西口と東口それぞれの振興協議会会長、及川委員と小谷委員  
をお願いしたい。（小松崎座長）

→異議なし。（各委員）

(4) エキサイトよこはま 22 今後の進め方（案）について（事務局より説明）

### 4. 意見交換

議事要旨

○委員：及川（副座長）

- ・ 副座長に任命頂き、身の引き締まる思い。皆様のご指導の下、務めさせて頂きたい。
- ・ 今年度から計画具体化に向けた本格的なスタート。地元として大いに期待している。

特に、基盤整備検討会の水のまち検討部会における総合的な治水対策が西口周辺には喫緊の課題。是非とも早急に具体的な政策の提示をお願いしたい。

概ね 20 年後の横浜駅周辺、国際都市横浜の玄関をつくる計画。安心して多くの人々に楽しく過ごしてもらえるまちにするため、横浜市のリーダーシップの下、計画実現に向け取組んでいただきたい。また出来る限りの協力をしたいので、ご指導いただきたい。

○委員：吉濱

- ・ 振興協議会として、西口の環境浄化等、主にソフト面での取組みを行っている。本計画実現により、民間だけでは実現できなかったインフラ整備というハード面での課題が解消されることに大いに期待している。交通渋滞解消、バリアフリー化促進、治水対策、歩車分離による歩行者の安全性の向上、防災機能充実等の課題がある。官と民の役割分担の下、実現に向けて取組んでいきたい。本計画の推進により、開発計画やまちづくり計画にも拍車がかかると期待したい。できる限りの協力をしたい。
- ・ 懇談会が年 1 回とあるが、計画の根幹をなす基盤整備検討委員会のメンバーに西口振興協議会は入っていない。年 1 回の懇談会で基盤整備の検討結果・報告を受けるのではなく、事前に検討内容の説明や、それに対する意見交換の場を設けて頂きたい。  
←必要に応じて、各検討会の合同開催やまちづくり戦略会議での議論や、節目ごとに意見交換の場を設けていきたいと考えている。（事務局）

○委員：小谷（副座長）

- ・ 前身のまちづくり懇談会にも参加し、民間企業と地元企業の立場から意見を述べさせて頂き、計画に取り込んで頂いた取組み内容もあり、懇談会の意義を実感している。本計画は、横浜駅周辺地区発展のため重要なプロジェクト。大きなプロ

議事要旨

ジェクトは社会情勢を見極めることと同時にスピード感が大事。社会情勢は厳しいが、計画策定には官民連携の取組みが大切。

- ・ 東口地区は MM21 地区、ポートサイド地区との間にあり、横浜の玄関口としての役割は大きいと認識している。MM21 地区とポートサイド地区とのアクセスの強化や、日産や富士ゼロックス、野村総研の相次ぐ開業による就業者数の大幅な増加で、東口のポテンシャルがさらに高まった。さらなるまちの価値向上のためには、駅前広場、駐車場連携、来訪者の利便性の向上が重要。また、水辺を生かした空間づくりにも積極的な注力をお願いしたい。魅力あるまちとして都市間競争に勝ちたい。
- ・ 民間活力の利用には、ガイドラインにおける規制緩和など行政の後押しが必要。横浜市にはリーダーシップを発揮して頂きたい。

○委員：遠藤

- ・ 昨日、スカイビルの社長に就任したばかりであり、これから勉強して意見を述べたい。

○委員：野並

- ・ 今回の懇談会から委員に地元自治会の方も加わり、地元事業者としては地元の方が増えて心強くなった。
- ・ 現在、国で議論されている国際戦略特区など、国家プロジェクトとしての位置づけを勘案すると、駅周辺地区だけでその位置づけを担うのは難しいのではないかと。駅周辺地区で終始するのではなく、隣接の MM21 地区などと一体として考える必要があるのではないかと。特に東口は物理的にも狭く、かつ MM21 地区との近接性から、駅周辺地区のみでは議論が完結しないと思う。

○委員：山崎

- ・ 横浜市が主体的に進めると決意表明頂いたことはよかった。協力しながらやっていきたい。
- ・ 現在検討している横浜駅西口の東急との共同事業が実現すればリーディングプロジェクトとなるので、スムーズに進むよう協力をお願いしたい。
- ・ 国の成長戦略では、国際戦略総合特区についての検討が進められており、来年度

議事要旨

には一部法制化の動きがあると聞いている。本計画が国の施策に乗り、国の支援を受けられる国際戦略総合特区を取込める話になるのか、一緒に検討していきたい。

- ・ 基盤整備、ガイドライン、まちづくりが検討の 3 本柱。

特に基盤整備には事業費がかかるので、国と連携しながら、支援を受けながら推進するという戦略が大切。

ガイドラインにおいては、まちの将来像を見据えたルール化が必要。長い時間を要する計画であるため、最初の縛りがきついと後々身動きできなくなる可能性がある。ある程度は事業者任せという自由度を持たせたものを検討頂きたい。

色々な都市でエリマネが行われているが、ハード整備だけではまちは活性化しない。ソフト面も一緒につくりあげていく仕組みづくりを議論したい。

←ガイドラインの深度化、運用については、小林先生を中心にまちづくり関係者や先行して開発を実施する事業者の方々と一緒に、意見交換しながら行ってきたいと考えている。(事務局)

○野本委員代理：濱名

- ・ 懇談会発足にあたり、今後の推進体制は官民連携のもと市の主体的役割を担うと明記されおり、並々ならぬ姿勢を感じた。民間として出来る限りの協力をしたい。
- ・ 横浜駅周辺は、交通処理に関わるインフラ整備が喫緊の課題と認識している。本計画の整備方針の中には歩行者ネットワークの項目があるが、JR と共同で検討しているプロジェクトの中では、歩行者ネットワーク機能の向上に資するような計画を検討中。歩行者ネットワークを考える上では、東横線跡地の利用方法もポイントと考える。インフラ整備については、市のスピード感を期待する。

○委員：大塚

- ・ 羽田空港国際化により外国からの来訪者が増えるが、外国人が横浜を見てどう思うのか。本計画により、また来たいと思われるまちになるよう期待したい。検討会も重要だが、形あるものがいかに早くできるかが重要。是非早期に実のあるものになるよう市に先導いただきたい。

#### ○委員：石塚

- ・ 計画をどう実行していくかが重要。特に基盤整備については駅周辺の整備の他に、治水対策、道路整備など難しい課題が山積。民間だけの力だけでは解決不可能。市のリーダーシップの下、前向きに取り組んでいきたい。

#### ○委員：林

- ・ 横浜駅西口地区は相鉄グループ最大の事業基盤であり、鉄道駅としての玄関口でもある。鉄道事業者としても、開発事業者としてもさらなる発展に注力し、計画の具体化に積極的に協力したい。
- ・ 各プロジェクトの実現には市のインフラ整備の進行が大きな推進力となる。また、駅周辺など既成市街地の再開発には多くの利害関係者が存在する。民間企業だけでは解決できない。計画実現においては柔軟な発想での取り組みが必要。官民連携の下で地域の活性化に向けて検討し、できる限りの協力をしていきたい。

#### ○委員：長谷川

- ・ 相鉄としては、計画の中で駅舎や線路そのものをどうするかという議論が生じている面で、他の鉄道事業者とは違う。鉄道事業は時間がかかり、計画の 20 年スパンはあっという間であり、途中での方向転換は出来ない。利害関係を越えて素晴らしい横浜駅になってほしいと思う一方、このような現実的な問題があるため、ご支援頂きたい。

#### ○委員：中山

- ・ 行政の考えはまちづくりに大きく影響する。なぜ、一日当たりの利用者数が横浜市の人口の 60%以上に相当する横浜駅が環境、弱者、交通に対して劣悪になったのか。本計画が、駅の活性化や利便性の向上、弱者に配慮することで、横浜駅の新しい姿を見ることができると期待する。我々は駅を中心とした事業者の集まり。横浜市民、世界の人のために出来ることは最大限にやりたい。市は志を高く持ち、計画を推進してほしい。

#### ○委員：大屋

- ・ 五番街は、鉄道と河川に挟まれているので、治水に関して大変興味がある。親水

議事要旨

に関してはエキサイトよこはま 22 の概要版 (P9 景観形成にあるイメージ図) にあるようになると思われがち。親水より治水を強調してほしい。

←治水重視は事務局も同感。帷子川河口部の改修、橋梁の架け替えによる治水安全度の向上と並行し、地域資源である河川を活かした水上交通、親水空間の整備も重要と考える。再開発で空間的にご協力いただくのも一つの方策と考える。

(事務局)

- ・ 6 月 1 日から意見募集された「駐車場整備ルール運用マニュアル」を読んだがよい取り組みだと思う。今後ともよろしくお願ひしたい。

○委員：倉知

- ・ 鶴屋地区は、駅前地区とは帷子川分水路で分かれており、更に行政区分で西区と神奈川区の分かれ目であるが、今回参加できて鶴屋地区を駅周辺区と認識して頂きたい。
- ・ 鶴屋地区においては、鶴屋橋の架け替えが重要な具体計画と認識している。駅の北口の顔づくりのひとつとしても、拡幅だけでなく、蓋をかけ広場ができるような計画にしてほしい。シアルの隣接地でもあるので、一体となりよいまちづくりをしていきたい。
- ・ 鶴屋橋の架け替え、周辺整備がどう進んでいくのか聞きたい。またそれにどうまちとして関わるべきなのかも教えて頂きたい。

←シアル・東急共同開発、北西口駅前広場の再整備、鶴屋橋の架け替えという総合的な整備が必要と考える。今年度、予備設計として鶴屋橋の概ねの基本計画をつくる。計画の柔軟な段階で、地域の方と意見交換をして進めていきたい。

(事務局)

○委員：齋藤

- ・ 是非とも早く横浜で開発事業をしたいと思っていた。インフラの問題や狭い土地での開発ゆえにビジョンができなかったが、本計画に乗り出来るだけ早く、元々公であった企業であるので、地域の活性化に資する活動をしていきたい。市、県、国が一体となった開発、国の中での骨格として横浜市が位置づけられることは重要と考える。タイムスケジュールを早められるくらい頑張してほしい。

議事要旨

○廣瀬委員代理 町田氏

- ・ 大きなまちの再構築にはコストやスケジュールなど多くの利害関係が関わる。どう調整していくかが重要。大義をおさえ、横浜市のリーダーシップでやってほしい。その第一歩がガイドラインだと考える。
- ・ まちづくり事業者の立場として。高島地区での検討において、インフラ部分、例えば東横線の廃道敷の取扱いなど様々な部分がリンクしてくるがスケジュール感が見えてこない。マスタースケジュール、インフラ整備の流れなどしっかり作りこんでほしい。
- ・ エネルギー事業者の立場として。ガイドラインにおいて、CO2 削減など掲げている中で、ハード面とソフト面などの大きな枠組みづくりについて協力していきたい。

○委員：澤

- ・ 計画により一層の整備が進み横浜駅周辺地区が発展することを期待する。西口はわが町という感覚。地元への貢献として、会の議論の内容を地元へ情報伝達できるよう協力したい。

○委員：齊藤

- ・ 昨年度大改造計画が始まってから、計画について地元は意見を持っている。数年前の台風により西口地区の床下浸水被害で、堤防を 50 cm 程嵩上げしてもらった。京急の架橋が嵩上げより低く、住民が心配している。いつくるかわからない自然災害なので、優先的な対処を要望している。
- ・ 市営地下鉄の高島駅、高島町側に駅から地上まで繋がる非常口がある。高島・平沼方面からは高島交差点を渡ることとなるが、交差点が広いためお年寄りには渡りきれないので、高島町側に改札口がほしいという要望と電線地中化をしてほしいという要望が多い。

←高島駅の改札については、改めて交通局と対応を検討させて頂きたい。

電線地中化については、災害、景観面からも非常に大切。歩道の幅などの物理的な要因も関係することから、計画の歩行者空間整備とあわせて積極的に取り組んでいきたいと考えている。(事務局)

議事要旨

○委員：網倉

- ・ 県は本計画に、河川管理者の立場で参加させて頂いている。帷子川の改修については、堤防の整備、市と協力して分水路建設など、治水安全度の向上について取り組んでいる。現在はみなとみらい地区で、川幅の狭い河口部の河川改修を重点的に進めている。厳しい財政状況ではあるが、引き続き改修を進めていきたい。
- ・ 横浜駅周辺の浸水対策は河川改修だけではなく、下水道による貯留管の整備など再開発事業と連携して取り組むことが大変重要。
- ・ 親水空間の整備については、魅力ある空間の創出として、まちづくりに合わせて新たな空間を確保し、皆様のご意見を踏まえた親水空間の計画など実現に向けて協力していきたい。

○委員：岡田

- ・ 基盤整備は重要だが、地味でお金がかかり、更に市民、駅利用者が工事期間中の不便等、我慢を強いられるため、市民感情的には理解しがたい部分。インフラ整備進行にあわせて、利用者の利便性、快適性、楽しさを感じられる計画の進行が必要。行政のイニシアチブが発揮されづらい分野なので、事業者にもイニシアチブを発揮してほしい。

○委員：芳賀

- ・ 約 20 年の長期スパンでの工事に対する市民、駅利用者の負担感の軽減方法を考えてほしい。東西自由通路の整備完了への安堵感の中また工事が始まることから、市民、駅利用者が工事の現場を楽しむ、工事の進捗に参加できるような演出を考えてほしい。
- ・ ポートサイド地区、MM 地区と本計画がどうリンクしていくのか。MM の高島地区には、日産本社、富士ゼロックス等の業務系のビルがたちあがり、人の流れが大分変化した。このようなポテンシャルに計画（工事）が影響しないよう、価値を高めていけるような横浜駅独特のエリアマネジメントを確立していく必要がある。

○オブザーバー：国交省 渡辺調整官代理 菊池専門官

- ・ 成長戦略会議において、都市住宅分野では「国際競争力強化のための拠点整備」「官民連携によるまちのリニューアル」「まちなか居住・コンパクトシティ」が提案さ

議事要旨

れ、これを受けて今後具体的な制度設計をしていく。本計画においても、国際競争力のあるまちに加え、官民連携によるまちづくりがキーワードとなっており、いかに民間事業者が参加しやすい仕組みをつくるかが課題である。国としても検討していきたいと考えており、是非懇談会でも検討してもらい、メンバーにも積極的に取組みに参加してほしい。

○オブザーバー：国交省 井上室長

- ・ まちづくりにあたっては、河川との関係を考えることが重要と認識している。治水面、親水面や、河川との構造上の関係もある。事業実施の支援や、構造面、制度面で何ができるのか、何をしていくべきかを一緒に考えていきたい。

○オブザーバー：国交省 田中室長

- ・ まちづくりの観点と交通機能としての乗換え利便が共存できる将来像が描けるように協力したい。相鉄の東部方面線が開通すると、状況が変わるため大きく計画の前提条件も変わる。10 年後、20 年後、30 年後、途中段階での絵を示していくことが必要。

○オブザーバー：横浜商工会議所 長島副会頭

- ・ 地元経済界も、都市分野には閉塞感があるなか、計画実現化のスタートに期待は大きい。小林先生、岸井先生には知見をご提供いただきたい。
- ・ 国家政策に乗るには、時間軸の取り方が大切。色々な都市が手を挙げているが乗り遅れないようにしたい。
- ・ 成長戦略のなかで「新しい公共」という言葉が出ていると聞いている。本計画の中での「新しい公共」とは何か議論がなされ、時間軸の中でそれぞれの役割がどう変わるか、経済界として関心を持っている。
- ・ 巨大都市横浜の都市構造論の位置づけをはっきりさせ、経済界や市民の理解が深まるよう進めて頂きたい。

○委員：小林教授

- ・ 今後まちづくりガイドラインの策定に関わりたい。現在は網羅的に書かれているが、今後どの目線でガイドラインを考えるかを整理する必要がある。市民にとって、開発事業者にとってのガイドライン、また、治水などの基礎的なものや、地

議事要旨

域価値を高めるガイドラインとは何かを整理し具体的なガイドラインの策定を進めていきたい。

- ・ 新しい時代の要求への対応も重要である。環境や高齢者を含めた様々な人々に寄与するガイドライン、羽田空港の国際化に対応したガイドラインなど仕分けしながら策定していく。
- ・ ガイドラインは運用の仕組みが必要である。運用方法を議論するようなまちづくり活動組織の早期発足が重要である。ここで議論しているガイドラインは、単に個別開発にルールとして適用されるためのものではなく、地域が一定の組織をつくり、みんなで開発のルールを守り、場合によってインセンティブを与えるという新しいまちづくりの仕組みとなるものである。これは成長戦略にある新しい公共の議論と繋がる。民間の組織化の議論が進まれることを希望する。
- ・ 市が行う基礎的な基盤整備は、一方的な支出ではなく結果的に税収として市に戻るといふ投資でもある。基盤整備後の民間開発の結果も市へ税収として、税金をかけた以上の成果をあげられる仕組みづくりが、今後必要である。

○委員：岸井教授

- ・ 地元の方の参加も始まり、いよいよ本格始動を実感している。また、政府による国際戦略特区は新しい話題で、横浜駅を含む横浜都心のためにあるようなものである。
- ・ 本計画は、関係者が多く複雑な仕組みのもとで実現していかななくてはならない。本格的な稼働段階となり、事業者の利害関係が交錯する中での合意形成が必要となってくる。大規模な会議もさることながら、膝を交えた議論が行われるよう、主導していきたい。
- ・ 羽田空港国際化という強いインパクトに続き、横浜から世界に対する新しいメッセージを発したい。世界に誇れる横浜をつくる重要な責任を負っている。次世代に胸を張れるような計画、事業を実施していきたい。このような場で知恵を出し合い、ハマのスタイル、ハマのシステムを築きたい。

○コーディネーター：UR 都市機構 菊池部長

- ・ 様々な開発、インフラ整備が複雑に絡み合い、20年、30年という長い時間をかけて動かす、みなとみらいに引き続いていくような大きなプロジェクトとってい

議事要旨

る。いろいろな形でお手伝いさせていただき、実現に向けて努力していきたいと思っている。

○委員：小松崎（座長）

- ・ 引き続き皆様方のご協力を得て、実りある計画に向けて邁進してまいりたい。

○委員：櫻井

- ・ 第 2 ステップに入り、地元の方々にも入って頂きありがたい。少しずつ本音が出てきて事務局としてはハードルが高くなるが、一つ一つ解決して進めていきたい。国、県のご協力、先生方にもご指導頂き、企業の方、地元の方、様々な方々のご意見を今後も頂きたい。

**5. 閉会**

以上

議事要旨

出席者名簿

学識経験者			
東京都市大学教授		小林 重敬	
日本大学教授		岸井 隆幸	
地元協議会			
横浜駅西口振興協議会	会 長(相鉄ホールディングス株式会社 代表取締役会長)	及川 陸郎	
	副会長(株式会社相鉄アーバンクリエイツ 代表取締役社長)	吉濱 勝	
横浜駅東口振興協議会	会 長(横浜新都市センター株式会社 取締役社長)	小谷 昌	
	副会長(株式会社スカイビル 取締役社長)	遠藤 孝也	
	理 事(株式会社崎陽軒 取締役社長)	野並 直文	
関係鉄道事業者			
東日本旅客鉄道株式会社	常務取締役鉄道事業本部副本部長	林 康雄	ご欠席
	執行役員ターミナル計画部長	山崎 隆司	
東京急行電鉄株式会社	専務取締役執行役員都市生活創造本部本部長	野本 弘文	ご欠席
	⇒都市生活創造本部 ビル事業部事業計画部統括部長	⇒濱名 節	代理出席
	取締役執行役員鉄道事業本部副事業本部長	泉 康幸	ご欠席
京浜急行電鉄株式会社	専務取締役鉄道本部長	大塚 宏幸	
	専務取締役都市生活創造本部長	石塚 護	
相鉄ホールディングス株式会社	取締役専務執行役員グループ経営戦略室長	林 英一	
相模鉄道株式会社	常務取締役施設部長	長谷川 正昭	
まちづくり関係者			
幸栄地区	横浜駅西口地区 市街地再開発準備組合	理事長	中山 博允
五番街地区	横浜駅西口五番街地区 市街地再開発準備組合	理事長	大屋 隆
鶴屋地区	鶴屋地区街づくり協議会	理事長	倉知 恒久
横浜駅東口地区	日本郵政株式会社	不動産戦略部 部長	齋藤 隆司
高島二丁目地区	東京電力株式会社	執行役員神奈川支店長	廣瀬 直己
		⇒神奈川支店 副支店長	⇒町田 和義
			ご欠席
			代理出席
地元自治会			
地元自治会	神奈川区 青木第二自治会町内会連合会	会長	澤 兼一郎
	西区 第五地区自治会連合会	会長	斉藤 攻
関係行政機関			
神奈川県	県土整備局	河川下水道部長	網倉 孝
横浜市	副市長		小松崎 隆
	神奈川区	神奈川区長	岡田 優子
	西区	西区長	芳賀 宏江
	都市整備局	都市整備局長	櫻井 文男
オブザーバー			
国土交通省	都市・地域整備局	都市計画課 施設計画調整官	渡邊 浩司
		⇒街路交通施設課 企画専門官	⇒菊池 雅彦
	河川局	治水課 流域治水室長	井上 茂治
	鉄道局	鉄道業務政策課 駅機能高度化推進室長	田中 一弘
地元経済団体	横浜商工会議	副会頭 都市政策委員会委員長	長島 俊夫
コーディネーター			
独立行政法人都市再生機構 神奈川地域支社 横浜駅周辺地区コーディネーター室 室長			菊池 康之